
ミゼルコルディア

柊鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミゼルコルディア

【コード】

N6332J

【作者名】

柊鏡

【あらすじ】

隣の客が言ったとき、ああ無常

『ミゼルコルディア』

隣の客が言ったとき、ああ無常。

隣の柿が言ったとき、もうすぐ秋ね。

隣の生垣いけがきが言ったとき、その竿かきどける。

隣の客は応こたえたよ、ああ竿か。

隣の柿も応こたえたよ、ええ竿よ。

件の竿くだんも言ったとき、俺も退どきたい。

柿は枝を撓しならせた。

客はもぎつて、実を食べた。

ああ、美味しい。ああ、美味しい。美味しい美味しい。ああ、美味しい。

そこで、柿は言ったとき、私しづがき渋柿。

すかさず、竿が口挟む。おいおい、柿の根は皆みな渋いのさ。

生垣負けじと、声あげる。いいから、退どけろ、竿退どけろ。

客は渋柿、平らげて、満面の笑みで言ったとき、もう晩秋じゃないか。

そりゃ、渋い、そりゃ、渋いと竿はち離ちす。

生垣怒おこって、声荒あらぐ。退どけろ、退どけろ、いいから退どけろ。

客が種を吐き捨てた。

種は畦道あぜみち転まがって、路傍ろぼうの溝とびに落ちていく。

溝の中、一匹のイトミミズが言ったとき、迷惑めいわくだなあ。

唱和して生垣言うには、いいから退けろ、早く退けろ。俺も迷惑
千万だ。

渋柿食い終え、客は立つ。
竿を持ち上げ、場を去った。

春風吹いた。

もう、春はそこだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6332j/>

ミゼルコルディア

2010年10月13日01時56分発行